

第81期中間報告書

(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)

Speciality
Chemical
Partner

荒川化学工業株式会社



代表取締役社長 末村 長弘

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、第81期中間報告書(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の国内経済は、景気の持ち直しがみられたものの、政策効果の一巡や夏場以降の急激な円高による輸出の伸び悩みなどにより、景気回復は足踏み状態となりました。

また、世界経済は、中国を中心とした新興国にけん引され、景気は緩やかに回復したものの、政策効果の一巡などにより、先進国で景気回復のペースが鈍化傾向となりました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、新製品の開発ならびに基盤技術の新規用途開発による高付加価値化を推進するとともに、主力製品のシェア拡大、生産プロセスの合理化などによる製品コストの低減および主原料であるロジンの価格高騰に対応した価格改定に努めてまいりました。また、水系樹脂、超淡色ロジンなどの環境に配慮した製品の拡販、光硬化型樹脂、電子材料用配合製品、精密部品洗浄剤や機能性ファインケミカル製品などの電子材料関連分野での販売を強化し、さらに有機・無機ハイブリッド樹脂、はんだ関連製品の拡大を推進してまいりました。海外におきましては、製品の拡販、中国を中心としたアジア地域の市場開拓を進めてまいりました。

その結果、当中間期の売上高は322億85百万円(前年同期比21.0%増)、営業利益は15億38百万円(同5.1%増)、経常利益は16億25百万円(同1.9%減)、純利益は9億65百万円(同43.9%増)となりました。

なお、当中間期の配当金につきましては、1株につき12円50銭とさせていただきます。

荒川化学グループは、第2次中期5ヵ年経営計画(平成20年4月から平成25年3月まで)において「基盤事業のさらなる拡大」、「伸長事業の拡大」、「新規事業・新技術の創生」および「経営・事業基盤の整備と強化」を4つの基本方針として掲げ、さまざまな施策を推進しております。

このうち、基盤事業のさらなる拡大におきましては、小名浜工場での超淡色ロジン製造設備新設工事が進んでおります。超淡色ロジンは、不純物が少なく熱などに対して安定である等の優れた特長を有しております。約30億円を投資し来年6月に完工予定であります。



小名浜工場 製造設備新設工事

平成22年10月には、ダウ・ケミカル社がドイツに保有運営する水素化石油樹脂製造設備等と ARAKAWA Europe GmbH の出資分60%を譲り受けました。また、広西梧州荒川化学有限公司が稼動を開始しました。

伸長事業の拡大におきましては、大阪工場での光硬化型樹脂および有機・無機ハイブリッド樹脂の製造設備新設工事が進んでおります。約25億円を投資し来年2月に完工予定であります。

Speciality
Chemical
Partner

個性を伸ばし 技術とサービスで
みんなの夢を実現する

新規事業・新技術の創生におきましては、将来の柱となるべき事業の確立を目指し、開発マネジメントシステムを運用しております。



大阪工場 製造設備新設工事

経営・事業基盤の整備と強化におきましては、各施策の達成のため、今後予想される資金需要に対する調達手段の多様化、安定化および調達力の向上を目指すとともに、荒川化学グループの財務の健全性や経営の透明性を高めることを目的として、9月2日に、株式会社日本格付研究所(JCR)より、格付けを新規に取得いたしました。

取得格付け	
格付け対象	長期優先債務
格付け	A-(シングルAマイナス)
見通し	安定的

当社グループにおきましては、第2次中期5ヵ年経営計画のキャッチフレーズ「PINE DASH 1000」を共通認識とし、グループ一丸となって、目標の達成と次なる飛躍へ挑戦してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様へ…………… 1・2

What is ROSIN?
より強く、より美しく…………… 3・4

スポーツと芸術を支えるロジンのチカラ

事業の概況…………… 5・6

連結財務諸表…………… 7・8

Information

ペルノックスの新製品…………… 9

放熱塗料ペルクール

会社概要…………… 10

より強く、より美しく スポーツと芸術を支える ロジンのチカラ

豪快なフォームで速球を投げ込むピッチャーと、華麗な踊りで観る人をうっとりさせるバレリーナ。一見まったく違う印象の両者ですが、実は、意外なところに共通点があるのです。それは、手やシューズに「滑り止め」をつけること。この滑り止めにはロジンが使われ、異なる分野で活躍する人々のパフォーマンスを支えています。

「手」や「足」にロジンを使用し それぞれのプレーや演技をフォロー

野球のピッチャーが、白い袋を手ではたいているのを見たことはありませんか？

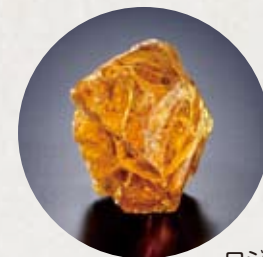
これはロジンバッグといって、滑り止め用の粉が入っています。この粉の主成分は炭酸マグネシウムとロジン。指先につけることでボールを滑りにくくし、微妙なコントロールを生み出しているのです。

また、バレエでは、バレリーナがつま先で立って踊る時、しっかりと床に足をつけて演技ができるようトゥシューズの先や裏面に粉状に砕いたロジンをつけます。

どちらも、ロジンが最高のパフォーマンスを引き出すために使用されているのです。



バレリーナたちは、専用トレイの上に粗い粒状のロジンをまきトゥシューズで踏みつけ砕いて使用します



ロジン

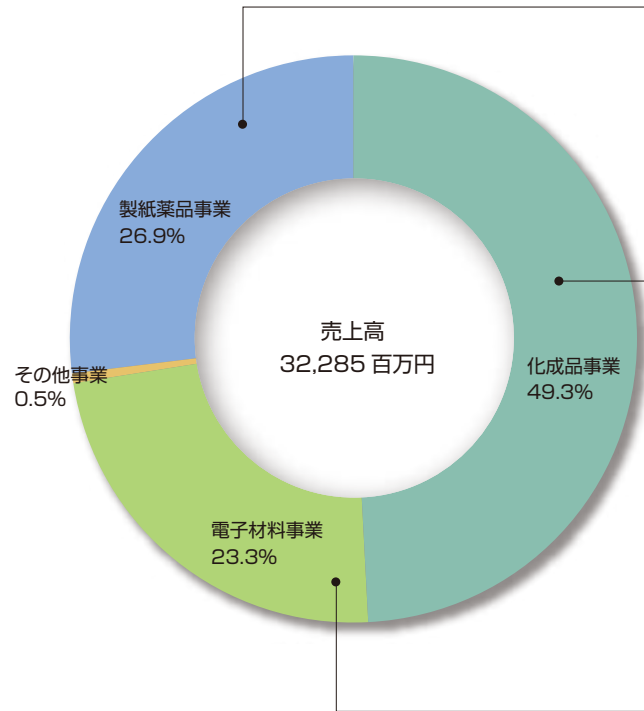


荒川化学はロジンと歩んで 130余年

荒川化学は、明治9年の創業以来、130余年におよぶ永きにわたり「ロジン」を原料とするパインケミカルズ（松脂関連化学製品）分野のパイオニアとして地位を確立してまいりました。例えば、紙のにじみ止め薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などを開発し、日本の産業の発展に大きく貢献してまいりました。

これからもロジンとともに 社会貢献

地球環境への関心が社会で高まる中、荒川化学は、ロジンという自然の恵みを生かした事業をおこなう企業としての社会的責任も大きくなっていると考えております。そのため、地球環境に優しい製品の研究や開発に引き続き取り組んでまいります。併せて、お客様の多様なご要望にお応えできる生産・販売体制のいっそうの充実に注力してまいります。



当中間期よりマネジメント・アプローチにもとづく「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および同適用指針によるセグメント情報の開示をおこなっており、セグメント情報を変更しております。

製紙薬品事業



国内製紙業界は、本格的な回復に至らず、生産調整が継続されるなど、低調に推移しました。一方、中国製紙業界においては、紙の生産が拡大し、子会社における紙力増強剤の需要も回復してまいりました。このような環境のもと、当事業におきましては、全体では需要が回復基調となり、売上が増加しました。利益面では、中国子会社における販売回復があったものの、主原料であるロジンの価格高騰や石油化学原料の価格上昇などが収益を圧迫し、減益となりました。その結果、売上高は86億79百万円(前年同期比10.1%増)、セグメント利益は4億19百万円(同13.9%減)となりました。

化粧品事業

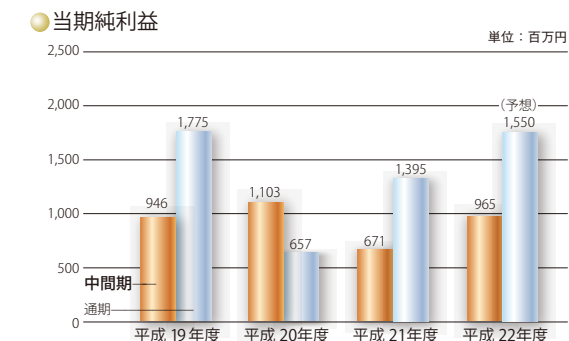
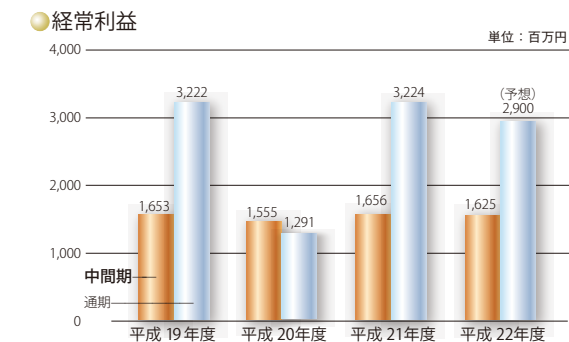
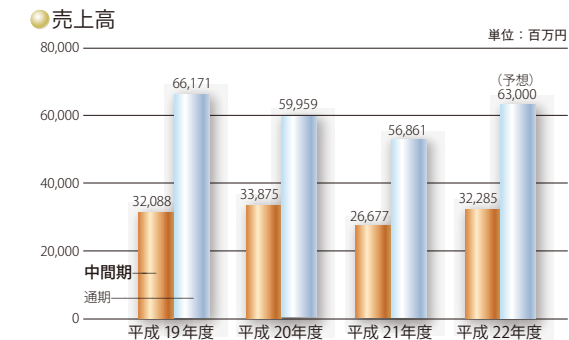


国内の印刷インキ、塗料および粘着・接着剤業界は、回復傾向にあるものの、需要は伸び悩みました。このような環境のもと、当事業におきましては、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂および粘着・接着剤用樹脂などの需要が回復基調となり、売上が増加しました。また、海外子会社におきましては、需要が拡大し、印刷インキ用樹脂および粘着・接着剤用樹脂などの売上が大幅に増加しました。利益面では、主原料であるロジンの価格高騰や石油化学原料の価格上昇などが収益を圧迫し、国内における採算性は大きく低下しましたが、海外子会社における大幅な販売増加により、増益となりました。その結果、売上高は159億22百万円(前年同期比25.5%増)、セグメント利益は7億74百万円(同119.1%増)となりました。

電子材料事業



電子工業業界は、需要の回復がみられたものの、ディスプレイ関連分野において生産調整がおこなわれるなど、伸び率は低下しました。このような環境のもと、当事業におきましては、光硬化型樹脂の需要がディスプレイ関連分野で減少しましたが、電子材料用配合製品、精密部品洗浄剤および機能性ファインケミカル製品などの需要は好調に推移し、増収増益となりました。その結果、売上高は75億32百万円(前年同期比26.4%増)、セグメント利益は5億24百万円(同8.4%増)となりました。



連結貸借対照表

科 目	前中間期 (21.9.30 現在)	当中間期 (22.9.30 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
[資産の部]			
流 動 資 産	38,040	41,166	40,585
現金及び預金	7,825	6,547	6,857
受取手形及び売掛金	20,204	23,255	21,719
たな卸資産	9,004	10,182	10,673
その他	1,119	1,284	1,451
貸倒引当金	△ 113	△ 103	△ 116
固 定 資 産	22,501	24,933	23,462
有形固定資産	17,958	20,196	18,657
建物及び構築物	6,417	6,469	6,647
機械装置及び運搬具	4,402	4,029	4,475
土地	5,065	5,423	5,424
その他	2,072	4,273	2,110
無形固定資産	440	413	411
投資その他の資産	4,101	4,323	4,393
投資有価証券	3,452	3,542	3,719
その他	671	804	696
貸倒引当金	△ 22	△ 23	△ 22
資 産 合 計	60,541	66,099	64,048

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (21.9.30 現在)	当中間期 (22.9.30 現在)	前 期 (22.3.31 現在)
[負債の部]			
流 動 負 債	19,597	25,815	23,297
支払手形及び買掛金	8,649	10,631	10,122
短期借入金	6,221	9,530	7,673
その他	4,726	5,652	5,502
固 定 負 債	4,554	3,166	3,870
長期借入金	2,233	832	1,436
退職給付引当金	2,067	2,062	2,064
その他	253	272	369
負 債 合 計	24,151	28,982	27,167
[純資産の部]			
株 主 資 本	35,058	36,245	35,541
資本金	3,128	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350	3,350
利益剰余金	28,591	29,777	29,073
自己株式	△ 10	△ 11	△ 11
評価・換算差額等	208	△ 260	221
その他有価証券評価差額金	494	342	653
繰延ヘッジ損益	—	18	—
為替換算調整勘定	△ 285	△ 621	△ 431
少数株主持分	1,122	1,132	1,117
純 資 産 合 計	36,389	37,117	36,880
負債純資産合計	60,541	66,099	64,048

連結損益計算書

科 目	前中間期 (21.4.1 から 21.9.30 まで)	当中間期 (22.4.1 から 22.9.30 まで)	前 期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
売上高	26,677	32,285	56,861
売上原価	20,258	25,249	43,499
売上総利益	6,418	7,036	13,361
販売費及び一般管理費	4,955	5,498	10,511
営業利益	1,463	1,538	2,849
営業外収益	297	256	573
営業外費用	104	169	198
経常利益	1,656	1,625	3,224
特別利益	0	58	42
特別損失	415	78	619
税金等調整前中間(当期)純利益	1,240	1,605	2,647
法人税、住民税及び事業税	711	517	1,412
法人税等調整額	△ 175	64	△ 287
少数株主利益	34	57	128
中間(当期)純利益	671	965	1,395

(単位：百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前中間期 (21.4.1 から 21.9.30 まで)	当中間期 (22.4.1 から 22.9.30 まで)	前 期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	3,726	605	4,969
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 828	△ 1,905	△ 3,451
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,027	1,062	△ 1,642
現金及び現金同等物に 係る換算差額	29	△ 72	57
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少額)	899	△ 309	△ 67
現金及び現金同等物の 期首残高	6,812	6,745	6,812
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	7,712	6,436	6,745

(単位：百万円)

ペルノックスの新製品 放熱塗料「ペルクール」 LED電球に使用されています

当社のグループ会社であるペルノックスは、配合技術、分散技術をコア技術として、エポキシ樹脂をはじめ、ポリウレタン、シリコン、導電性材料などの素材を、お客様のニーズに適した製品に仕上げ、エレクトロニクス関連業界を中心に供給しています。



ペルノックス本社・開発センター

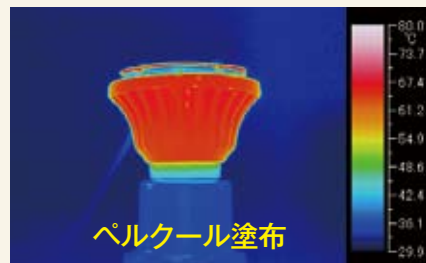
そのペルノックスが新たに開発した放熱塗料「ペルクール」は、特殊な材料を配合・分散して最適化した塗料であり、優れた放熱特性を有しています。

様々な金属に対する密着性にも優れており、塗布するだけで放熱性が向上します。

今話題のLED電球に塗布した場合、金属部分の表面温度を6~7℃下げる効果があり、発光効率のアップによる輝度向上や長寿命化が可能となります。



LED電球



7℃程度低下

今後も、変化が著しい時代のニーズに対応し、新たな価値創造をもたらすオリジナリティー溢れる製品創りに邁進してまいります。

会社概要 (平成22年9月30日現在)

商号	荒川化学工業株式会社
創業	明治9年(1876年)
設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	31億2,830万円
グループ従業員	1,290名
主な事業内容	次の製品の製造および販売 製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、 合成ゴム重合用乳化剤、粘着・接着剤用樹脂、 食品添加物用樹脂、電子材料用樹脂、 精密部品洗浄システムおよびその関連機器
ホームページアドレス	http://www.arakawachem.co.jp

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	中尾光良
常務取締役	松本圭三
常務取締役	谷奥勝三
常務取締役	眞鍋好輝
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
取締役	延廣徹
取締役	荒川壽正
取締役	辰巳純一
取締役	宇根高司
監査役(常勤)	山中勝之
監査役(常勤)	蒔田宗治
監査役	岩城本臣
監査役	中西隆夫

(注) 監査役岩城本臣および中西隆夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	52,800,000株	
発行済株式の総数	20,150,400株	
株主数	3,333名	
大株主(上位10名)		
株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,325千株	6.58%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,208	6.00
荒川化学従業員持株会	1,027	5.10
株式会社三菱東京UFJ銀行	940	4.67
荒川壽正	898	4.46
荒川彦二	412	2.05
三菱化学株式会社	406	2.02
株式会社みずほ銀行	397	1.97
株式会社三井住友銀行	396	1.97
王子製紙株式会社	345	1.72

(注) 持株比率は、自己株式(11,616株)を控除して計算しております。

グループ会社の状況 (平成22年9月30日現在)

会社名	資本金	議決権比率
広西荒川化学工業有限公司	12,000千米ドル	100%
南通荒川化学工業有限公司	5,500千米ドル	100%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500千米ドル	100%
ペルノックス株式会社	60百万円	100%
高圧化学工業株式会社	60百万円	100%
ARAKAWA CHEMICAL (THAILAND) LTD.	119,000千タイバツ	90%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226千新台幣元	60%
ARAKAWA CHEMICAL (USA) INC.	1,400千米ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100百万円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000千米ドル	60%
廈門荒川化学工業有限公司	5,603千米ドル	間接60%
ARAKAWA Europe GmbH	52千ユーロ	40%
広西梧州荒川化学工業有限公司	6,000千米ドル	100%

(注) ARAKAWA Europe GmbHは、平成22年10月に100%子会社となりました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。

荒川化学工業株式会社

大阪市中央区平野町1丁目3番7号 〒541-0046
電話 06-6209-8500(代表)



地球に優しいベジタブルインクを使用しております。